

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2170700492
法人名	有限会社マイハウス
事業所名	グループホーム マイハウスしんせい
訪問調査日	平成 20 年 3 月 7 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 25 日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2170700492
法人名	有限会社マイハウス
事業所名	グループホーム マイハウスしんせい
所在地 (電話番号)	岐阜県本巣市十四条字高田557番地 (電話) 058-323-0311

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	名古屋市昭和区鶴舞3丁目8番10号		
訪問調査日	平成20年3月7日	評価確定日	平成20年4月25日

【情報提供票より】(平成20年2月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月22日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	9人, 非常勤 5人, 常勤換算 13.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 200,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,350円	

(4) 利用者の概要(2月3日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82.9 歳	最低	61 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白木医院 岐阜中央病院 しんせい歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周りには広い柿畑が広がっている。長年柿の生産に従事された利用者には、その柿畑がよく見渡せる居室を用意している。この利用者は、新芽を吹いた柿の木の芽、葉の間で揺れる白い花、熟れていく柿の実の成長、収穫風景などを通じて季節を感じているに違いない。この例を見るまでもなく、法人代表の本人本位の理念(できる喜び 自分でできる 楽しくて明るい生活)がホーム長から職員に至るまで浸透している。ホームの壁面に、男性利用者が露天風呂に入っている写真が貼ってあった。たまには男同士の裸の付き合いも叶えてあげよう(願望がある)との粋なはからいの温泉旅行である。付き添ったのは、もちろん男性職員である。目的や方向性が定まっている充実感のあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、唯一玄関周りの家庭的雰囲気づくりを要改善指摘されている。開設(移転)から日が浅かったためであるが、その後玄関にベンチや椅子を置く等工夫が行われた。季節の花は、玄関だけでなく共用部分のいたる所に飾ってある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長を中心として、職員の意見を求めて自己評価票を完成させている。この自己評価によって職員に芽生えた新たな気付きは、毎月開催されるケア会議で話し合われており、サービスの向上につながっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族も参加できるホームイベントや小旅行が多数企画されており、運営推進会議はそのホームイベントに併設して開催されることが多い。家族には出席しやすく配慮されているが、行政の担当者の出席機会が少ない。運営推進会議が「家族会」的な役割だけにならないよう、幅広い階層のメンバーが参加できるような工夫が望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱が設置してあるがその利用はほとんどない。ホームイベントへの参加時や訪問の機会を狙って家族の意見を聞くことが多く、コミュニケーションは良好である。定期的(イベント開催の都度)に発行されている写真よりも、家族への情報提供に大いに役立っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	移転して日が浅いが、積極的に地域イベントに参加している。バスを貸し切ったの小旅行には、地域の住民がボランティアとして参加することもある。保育園児や近所の老人会のメンバーが顔をのぞかせることもある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分でできることの喜び」を主眼としたこれまでの理念に、「みんなで地域と一緒に生きていこう」の文言を付け加え、さらに地域密着型サービスの浸透を図ろうとしている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人内の異動があり、ホーム長の一人は変更となったが、職員間のコミュニケーションは良好であり、法人代表の思いは定期的なミーティングでしっかり伝えられている。		
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	文化祭や盆踊り等、地域のイベントに積極的に参加している。毎月のように実施しているバス旅行には、地域の住民(ボランティア)が特別参加されることもある。		地域の子供たちが、時折訪問することがあるという。このようなことを縁として、幼・保育園や小・中学校との相互の行き来が生まれることに期待したい。
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長を中心として、職員の意見を求めて自己評価表を完成させている。この自己評価によって職員に芽生えた新たな気付きは、毎月開催されるケア会議で話し合われており、サービスの向上につながっている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ホームイベントに併設して開催されることが多い。家族は出席しやすく配慮されているが、行政の担当者の出席機会が少ない。		運営推進会議が「家族会」的な役割にならないよう、幅広い階層のメンバーが参加できるような工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とのパイプ役は、主として法人代表の役目となっており、良好な関係を築きあげている。市の担当者は、ホーム運営についての様々な相談や質問に、協力的に対応してくれる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人代表、職員ともに、家族への情報提供の重要性を認識しており、「写真だより」(「マイハウス便り」)が定期的に発行されている。活字よりビジュアルなものの方が真実を伝えやすいとの根拠から、現在の「写真だより」となっている。		現在は法人代表が「写真だより」の制作を一手に引き受けている状況であるが、職員も制作に加わるようになれば、一味違った感性や目新しい気付きも出てこよう。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情意見箱が設置してあるが、家族の利用はほとんどない。家族の訪問機会を利用して、職員が直接意見や要望を聞くようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係でケアが行われるよう、法人都合による職場の配置転換を極力見合わせている。退職者や人事の異動は、早めに家族に説明している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の道は開けているが、業務の都合等もあって参加の頻度は少ない。全職員を対象としたホーム内の研修体制を整備中である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人代表は、県グループホーム協議会の役員であり、同業者との交流の機会が多く情報に不足はない。同一法人内のホーム長(ユニットの責任者)の会合を定期的開催しており、情報の共有化を図っている。		一般職員については、同業者との交流機会がほとんど確保されていない。法人内で交流をもち、交換研修や合同研修の拡充が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>新規の利用者が、早くホームに馴染めるように、馴染みの品の持ち込みを推奨している。長年柿の生産に携わってきた男性利用者には、窓の外に広々とした柿畑が見渡せる居室を用意している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は押し並べてすしが好きである。ホームですし作りをする時には、酢の調合を利用者に任せることもある。昼休み、テレビ出演している美川憲一をめぐって「男か女か」の論議が起きたが、職員もその中に加わっていた。</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>系列のホームと合同で、男性利用者と男性職員だけの温泉旅行が実施された。女性職員中心の介護の世界の中で、男同士の裸の付き合いも必要であろうとの、利用者の思いを汲んでの開催である。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員全員参加のケア会議でカンファレンスを実施して介護計画を作成している。ケア会議は毎月開催されることから、目標達成の進捗をここで確認している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>原則として、3ヶ月毎に定期的な介護計画の見直しを実施している。入院により歩行が困難となった利用者が、退院3日後にはつえを使って歩行できるようになり、さらに自立歩行に向けてのケアが行われている様子が、介護計画の変更に記録されていた。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望でお墓参りに付き添ったり、家族の希望で通院・入院の付き添い・同行をしている。利用者、家族の希望には、極力対応しようとの姿勢がうかがえる。		さらなる対応としては、地域の福祉関連ニーズを把握され、可能なものがあれば、地域のお年寄りに対するサービスにも目を向けられることを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一律的にホームの提携医をかかりつけ医とするのではなく、本人や家族の希望する馴染みのかかりつけ医をお願いして、訪問診療してもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化・終末期ケアの問題については、避けて通れない課題と認識している。しかし、現時点では看取りはしない方針であり、利用開始時に家族とも見解の合意をみている。		重度化した時点での無用なトラブルを避けるためには、利用開始時に口頭説明だけでなく、家族との「合意書」の取り交わしを行うことも考慮されたい。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	女性利用者にとって、異性に入浴時の姿を見られるのはいやなことに違いない。シフトの関係で、仕方なく男性職員が入浴介助をする場合には、湯船に濃いめの入浴剤を張る配慮をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	元気なころ、詩吟が得意であった女性利用者は、今でも歌を歌うことが大好きである。彼女が歌を歌いだす気配を察知すると、職員は歌詞カードを用意して他の利用者にも歌への参加を呼び掛けていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にも、食事全般に係わりをもってもらようとしている。イベント時の献立は、利用者と職員が相談して決めている。利用者に少しでも美味しい物を食べてもらおうと、法人内の6ユニットが、共同で直接市場から食材を調達している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほとんどの利用者は1週間に3日の入浴を行っている。限られた時間帯の中ではあるが、入浴する順序を調節して利用者の希望を少しでもかなえようとしている。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	訪問調査の約1週間前にいちご狩りのイベント旅行があった。その時撮りためた写真を、法人代表自らが利用者一人ひとりに見せて回っていた。気晴らしになったのであろう、それまで不機嫌だった女性利用者が、写真の魔術でにこやかになった。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	通常のホームでは、日帰りといえどもバスを使っでの旅行となると、非日常的なイベント扱いになる。ところがこのホームでは、毎月のようにバス旅行が行われており、日常的な外出支援としての位置づけである。バス旅行は、家族からも好評である。		バス旅行は、企画から手配、現地での交渉、記録(写真の管理)等々、すべて法人代表が行っている。シフトに余裕を持たせ、職員の参画を望みたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状態を見ながら、玄関の鍵を掛けるか否かを決定している。現在は、元気な利用者がいるため、昼間でも鍵を掛けている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主的な防災訓練(避難訓練)が実施されており、災害時に近隣住民の援護が得られるよう、自治会に働きかけている。まだ、夜間を想定した避難訓練の実施はない。		夜間の災害発生時には、近隣住民の協力が不可欠となる。休日を利用するなどして、地域住民参加の「夜間想定避難訓練」の実施を望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量については記録が取られていないが、食事については、毎食の内容や食事量を記録している。毎月の体重測定が、食事量や栄養価の検証となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あるユニットでは、昼の食事が済んでも、すぐに自分の居室へ戻る利用者はいなかった。テレビの前に大きなソファが置いてあり、利用者は座布団等を置いて席取りを行っている。イベント用品の「歌詞カード」は、いつでも取り出せる場所に置いてある。ホームのあちこちに季節の花が飾ってあった。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始前の打ち合わせで、家族に対して使い慣れた家具や調度の持ち込みを推奨している。その効果で、どの部屋にも本人の使い慣れた筆筒が置いてあった。		